

「何でもかんでも朝鮮人にかぶせるんや」

カントウルスン
姜順さんの話

終戦のとき

終戦のときは、うちの住んだところだけ電気がきてなかったし、ラジオもきけなかった。十四日の晩はお盆やったから、子ども全部集めて、ワっとたき火して、すましておわいどした。

そして、十五日の四時ごろ、いっぱい警察が来て、「ばかもの」

言つて入ってきた。私を家の前に集めて

「おまえら、日本が戦争に負けたと思って言つて、昨日の晩、おわいどしたやろ。」

と、何で今日負けたのに昨日の晩、喜ぶの。話にならなくて。何でもかんでも朝鮮人にかぶせるんやわ。うちを含めて、女五、六人と男一〇人ほど、警察にひっぱられて行ったよ。ジープで。ジープなんか乗ったことないし、うれしくなつて。

そして、そのでこのころと聞かれた。

「私ら知りませぬ。電氣もなないよ。」

「電氣もなないの。」

「はあ。」

電氣がなくてラジオがきけんの、と、おわいどして日本が戦争に負けたのが分かるのと、いっわけ、後々、警察はもつ何にも聞かんだ。

と、いっつて警察に朝鮮人が集まっていたのがわかつたか、今なら聞けよ。あのときは警察いっつたら、みんなびびつてしもつて聞けんだ。あんまりにも差別がひどかつたから、日本人いっつたら、おわいどして、日本人が来たいっつたら、泣いよものも止まった。それへら、いっつわかつた。

日本が負けたとわかつたのは、警察が来てそれなるといっつのを聞いたから、初めて分かつたんや。おわいどが

「戦争、負けたよ。」

と、いっつたら、となりのおばあちゃんか

「そんなこと言つたら、またたかれるぞ。」

と、

うちの住んだところにも電気がはいつたのは終戦後のことや。役場が電氣入れしてくるわけがない。役場はたのんだら、自分らで金を出すがならいっつたので、あめ作りでもつけたお金を出して、電氣を引けてもらった。

洗濯屋、と、いっつあめの

戦後まもなくのこと。うちの長男が中学一年とき、学校から

「『明日、かあちゃん、ちよつと学校へ来い。』言われた。」「ちよつわけや。

「おまえ、悪いことしたんか。」

と、いっつて

「何もつうらど。」

と、いっつて

「なんかしてらんと、と、いっつは親、来いと言われたやろ。」

と、いっつて

「こつらんと。」

と、いっつて、おかつて

そして、学校へ行って、校長先生のと、いっつて

「あんだら、いっつなんせ、いっつて、子ども服、せんだく屋へた出すの。」

と、いっつて

「あ、つ、せんだく屋めりますか。」

せんだく屋めりて知りたまなべら

「あら先生、ちよつともついついペンお願いします。せんだく戻つてどこにありますの？」

と言つた。

「あんたら、いつも子どもの下着やら着やすもん、どつして着たさる。」

と聞く。

「どつして着たさしたるつて、うちであらうんです。石けんなんか使いません。灰汁²にソーダ入れて火でたくんです。それからノリして、アイロン（よめに行くとき持つて来たやつや。）かけるんや。そのために来い言いましたんか。」

先生らタラタラしてゑ服、着とるがに、朝鮮人がこうしてパシツとしたが着とる。せんだく戻出して下着をノリでパシツとして。それで学校の先生らみんな集まつて

「けしからん、親、呼ぶ。」

ちよつことになつたんや。

じよんだんやない、本当に。それで校長室から出るとき、戸、バチーンと閉めてきたんや。何でもかんでも朝鮮人にかぶして。せんだくまで。

「せんだく戻すにがあるの。」

その抗議して出てきたんや。校長先生は

「すいませんね、すいません、すいません……。」

と言つた。

そして歸つて来たたら、長男が

「とかけて着たさしたる。」

と言つてやつた。

本当にもつオナラ二回したら、一つは全部朝鮮人にかぶしたもんや。



1 朝鮮では家庭でよく作られた

大麦の芽出しをしてもやし状にした後、乾かして粉にする。それに水と米を入れてたく。八時間ほどもおいてしぼるとあめになる。

2 豆殻ともち米のわらをたいてその灰をこす。それに苛性ソーダを入れて一時間ほどたくと真っ白になる。のりはのりぐろに「はんを入れてつぶして作る。当時朝鮮人の住んでいるところは汚いといつて日本人は差別したが、戦後まもなくの衛生事情の悪いときでも、うちの服にはシラフミミ「匹わかん」と妻さんは語っていた。

何でもかんでも朝鮮人にかぶせるんや (小学校高学年向け)

A 教材設定の意図

予断や偏見に基づく差別的な言動は人を深く傷つけるとともに、時には人を死にまで至らしめる。

関東大震災のとき、六、〇〇〇人も在日朝鮮人が虐殺された。震災後の混乱のさなかに「朝鮮人が井戸に毒を流した」「朝鮮人が家に火をつけた」といううわさが流されたためである。

事実を確かめせず、朝鮮人の日々の生活に目を向けたり、文化を理解しようともしないで、予断や偏見で朝鮮人を見ることが未だになくならない。そして、その予断や偏見の根底には「朝鮮人ならやりかねない」「朝鮮人のくせに」という朝鮮人を見下す差別意識が根強くある。そうした差別意識が予断や偏見によつて助長され、差別の再生産をしている。姜乙順さんの二つの話はそうした日本人の差別性を浮き彫りにするとともに、差別を逆にバネとして、朝鮮人としてのほこりを失わずたくましく生きる姜さんの生き方を指し示している。

「朝鮮人ならやりかねない」「朝鮮人のくせに」という差別意識はどのようにしてつくられたのか。それに基づく差別的な仕打ちがいかに朝鮮人を傷つけているかを、姜さんの思いにふれながら考えさせたい。そして、在日朝鮮人の日々の生活や思い、生き方、文化を理解することなしに、頭だけで差別はいけないと叫んでもそうした差別はなくならないということ、子どもたちに感じ取ってほしい。

また、この教材を単に在日朝鮮人差別の問題だけでなく、日々

りでたくさんもうけて、自らの力で電気を引くというくだりでは、そのたくましさにも共感させたい。

「洗濯屋、どこにあるの」では、石鹸を使わず、灰汁と苛性ソーダでそれこそ洗濯屋に出したと見間違ふほどの朝鮮人の優れた文化・技術を感じる。ここではそれに対する理解のなさだけでなく、「朝鮮人のくせに」自分たちよりいい格好をしている見下した朝鮮人観に起因して差別が起こったことをおさえない。

そうした差別に対して姜さんは、たとえ相手が校長であろうと、毅然とした態度で事実を示し、校長も謝らざるを得なくした。さらには「よし明日からもっときれいに、アイロンびしーっとかけて着せしたる」と長男に語る。その姿には自分ができる精一杯の抵抗と自国の文化と技に対する誇りが感じられる。

そのときどきの差別事象だけでなく、そうした差別事象の積み重ねが「朝鮮人ならやりかねない」「朝鮮人のくせに」という朝鮮人を見下した差別意識をつくり、それがまた差別を再生産してきた構造をいねいにおさえ、子どもたちの生活の振り返りにつなげていきたい。

C 指導上の留意点

①学級に在日朝鮮人児童がいる場合、その児童を取り巻く状況を把握し、本人や親と教材設定の意図等についてしっかりと話し合いをしておきたい。

②差別の実態ばかりを強調するのではなく、差別に抗して生きる姜さん他朝鮮人の姿を示し、在日朝鮮人児童を含め、差別された子どもたちを励ますもの、元気づけるものとして授業を展開しなければならない。

③「くせにやりかねない」「くせに」と差別的な目でも周りから見られ、ひどいあつかいを受けている子がいる

の生活の中、学級の中でも友だちを見下してつらい思いをさせていないか考えるきっかけにしてほしい。「あいつならやりかねない」「ちびのくせに」「女のくせに」「勉強もできないくせに」等々、そんな言葉で人を見下す自分の在りようを、差別された側の生活や思いに触れる中で考えてほしい。そして、そんな見方をされ、学級でつらい思いをしている子がいれば、姜さんのたくましい生き方に共感し励まされ、元気が出るようになってほしい。

B 教材の解説

姜乙順さんは一九三八年、手取川の大洪水の復旧工事に従事する家族について石川県に来て、そのまま石川県に住むようになった。いろんな差別を受けながら、家族の生活を守るため自分たちで仕事を見つけ、それこそ必死に生きてきた。現在は金沢市在住である。今回は姜さんが数人の教師に語った話の中から二つの出来事を教材化した。

「終戦のとき」の警察に引つ張られた話では、終戦時に朝鮮人がなぜ騒ぐと思ったのが問題となる。一つは朝鮮人の住むこの町だけ電気が引かれていないという生活実態に、心を寄せていなかっただけである。もう一つは、日本人がいかに朝鮮人を抑圧したかということの裏返しである。そして、その根底には「朝鮮人なら、やりかねない」という差別意識があったことをおさえたい。

勝手な思い込みに対して事実を示す事で誤解を解き、そうしたひどい仕打ちを受けた悔しさをばねに、この町の人が始づく

れば、その子の思いを受け止め、学級の課題として、みんなに返していつてほしい。

D 参考

・在日朝鮮人について

日本に移住した朝鮮人の多くは、主として明治以降の日本の植民地政策により、土地を奪われ、祖国を離れて日本に移り住むことを余儀なくされたり、強制的に日本に連れて来られたりした場合が多く、一九四五年には約二、三六万人にもなった。日本の敗戦によって祖国が解放され、約一四〇万人が帰国した。しかし、在日の期間が長く、祖国に生活の基盤がなくなっていた人々は、帰国できずに日本に残らざるを得なかった。

現在は約七〇万人の在日朝鮮人が住んでいる。日本社会には在日朝鮮人に対する差別が未だに残っている。その結果、生活に不安を感じたり、就職、結婚など将来への不安を持ちながら生きている人がたくさんいる。また、納税の義務はあるが、参政権がないなどの不安定な法的地位におかれている。

E 参考資料

・「手取川と在日朝鮮人」〈聞き取りを通して〉

新宅 雅美 (根上町立根上中学校)

笠間 孝治 (寺井町立寺井小学校)

津田 康則 (根上町立福岡小学校)

二〇〇一年 能美郡人権教育研究会報告

・挿し絵 川島 敏憲 (辰口町立中央小学校)

F 授業の展開例

教師の基本発問・助言

児童の活動・指導の要領

1 導入

①日本に一番多く住んでいる外国人はどここの国の人でしょう。

2 展開

②「何でもかんで朝鮮人にかぶせるんや」を読みましよう。

③それぞれのお話で、姜さんたちは日本人の勝手な思いこみによってどんな仕打ちをうけましたか。また、そのときの姜さんたちの気持ちを考えてみましょう。

④なぜ、日本人が朝鮮人に対してそんな勝手な思い込みをしてしまったのか、考えてみましょう。

⑤そのような仕打ちに対して、姜さんたちはどんな行動をとりましたか。

三、まとめ

⑥「くならやりかねない」「くのくせに」という勝手な思い込みで、友だちを傷つけたことはありませんか。また、そうした思い込みのせいで傷つけられたことはありませんか。

①在日朝鮮人が七〇万人ともっとも多いことから、在日朝鮮人の生活や思いに目を向けるきっかけとする。

②姜さんのことを紹介した後に読む。読んだ後、姜さんが日本に来たわけ、飴作りや洗濯など朝鮮の風習、文化などについて補足説明をする。

③事実在即して「電気もないのに、ラジオを聴いた」「相撲をしていたのに、戦争に負けたことを喜んで騒いでいた」「自分の家で洗っているのに、洗濯屋に出した」など具体的にどんな思い込みをされ、どんな仕打ちを受けたか出し、そのときの姜さんたちの思いを考えさせる。

④朝鮮人の生活や文化を理解しようとしなかった根底には「朝鮮人ならやりかねない」「朝鮮人のくせに」という長い間の歴史的、社会的につくられた差別意識があったことを「何でもかんでも朝鮮人にかぶせるんや」「本当にもうオナラ二回したら、一つは朝鮮人にかぶしたもんや」などの言葉に注目させておさえる。

⑤警察や校長に対しても毅然とした態度で事実を示し、間違いを正したこと、差別されたくやしさをバネに自分たちで費用を稼ぎ、電気を引いたことや「明日からもっときれいにして着させた」と言ったことなど、姜さんたちが民族の文化や技に対する誇り、人間としての誇りを失わず、差別に抗して生きていった強さに共感させたい。

⑥一人ひとりに自分の生活や体験を振り返らせる。そこで出てきた「くならやりかねない」「くのくせに」というクラスにある差別意識や差別された子の思いについては、今後の授業で取り上げ、クラスの問題としてみんなで話し合いたい。